

## 「郡道」沿いに高層マンション

作家・司馬遼太郎の紀行シリーズに「街道をゆく」がある。「街道」ではなく、「郡道」をゆく、として昨年3月18日にレポートを書いた。そこでも紹介した昭和区役所まちづくり推進室のサイトには、郡道とは「昭和区の西部を南北に縦断し、南端は東海道の呼続(南区)、北端は飯田街道の古井坂(千種区)に通じている道。完成は明治42年(1909)、大正12年(1923)の『愛知郡誌』によれば当時郡内に49本の郡道が通っていたが、この道だけが今でも地域の人々から『郡道』と呼ばれている」としている。

瑞穂区白竜町・下坂町の郡道沿い、写真上左の交差点右側に15建て高層マンションの建設が始まった。写真右の上ですこしだけ見える白い建物が、「すずらん幼稚園」だ。ここは林京香さんの妹・ちーちゃんが通ったところだ。幼稚園や住宅の前に、地上15階建てマンションが聳えることになる。完成した高層マンションを想像しただけで、日照・通風など心配になる。



工事現場近くでは、建設反対の幟や横断幕が多く見られる。マンション北側にあたる家などには、購入者に対する「警告」も掲げられていた。一方で、地下鉄「名城線」にマンションの「案内」広告が出ていた。



このマンションは前から気になっていた。売主は名古屋に本社があるイワクラゴールデンホーム、施工は日本建設名古屋支店である。売主のサイトから。「静穏の丘。洗練の景。静穏な空気に抱かれた瑞穂区の丘。その丘陵に、美しき時を刻む全70邸の『カルティア瑞穂が丘』。界限に広がるのは、明治時代から幹線道路を中心に発展してきた歴史ある住宅地。この地の豊かな環境と共鳴し合うように、安息の中に、心を解放する上質な住まいを目指しました。」「穏やかな街並を望む、住宅地の隆丘。計画地は、南に視界が開けたロケーション。ゆるやかな南雛壇のため、日当たりも良く快適に暮らせませす。」ここは歴史ある郡道沿いの閑静な住宅地。こんな下町の住環境のところに、15階もの高層マンションが周囲を見降ろすように建設されることが問題なのだ。マンションは日当たりも良く快適かもしれないが、周辺住民はたまったものではない。今秋販売開始予定というが、売主が一貫して住民との話し合いを拒んできたという。マンション建設のゆくえに注目していきたい。

(2016年8月8日)